

上映『暮らしの記憶』から探る雑司が谷 報告

山田 智穂

私たち NPO 法人「としまの記憶」をつなぐ会は、法人として豊島区内の人々の暮らしの記憶を動画に記録・編集し、アーカイブにまとめる活動を始めて 5 年になります。

2015 年度の戦後 70 年企画「池袋＝自由文化都市プロジェクト」による展示「戦後池袋——ヤミ市から自由文化都市へ」（東京芸術劇場ギャラリー1・2）でのギャラリートークへの参加に続き、2016 年度の「池袋学」夏季特別講座である雑司が谷に関するイベントへの参加を打診されましたので、それを受けて『暮らしの記憶』から探る雑司が谷』というテーマの下に「雑司が谷に関わる動画の上映と語り手との交流」を目的として参加いたしました。その概要につきまして、以下に報告いたします。

1. 雑司が谷とは、どこか——動画を選ぶにあたって

今では暗渠となって東南に流れる弦巻川の流域としての「雑司が谷」の地は、①地形的には、出口の絞られたいわば盆地的なまとまりを持つ小さな別天地を構成しながら、②歴史的には、古代に遡る広域的な主要道（中世以降のいわゆる鎌倉街道）が地域を横断して広く外につながり、③近世には江戸の近郊として、「鬼子母神」を中心に人々の信仰と遊楽の地として栄えた。

さらに関東大震災は、④東京の近郊の雑司が谷を含む「牧歌的な田園地帯」を住宅の密集する市街地に変え、その大部分は後の戦災で再度破壊された。

加えて、⑤「現在の雑司が谷」は、一部の南池袋、西池袋、目白を含むかつての雑司が谷の 1/5 程となっている。どこまでが雑司が谷であるか、雑司が谷の地域の特性は何かなどを考えるときに雑司が谷の規定が問題となる。

現在の行政区域に直接関わる問題ではなく、文化や暮らしの面から地域を考えるのであれば、雑司が谷を「弦巻川流域としての雑司が谷」、つまり「旧雑司が谷」とするのが順当であり合理的である。

2. 参加のコンセプト

したがって、以下のようなコンセプトで企画を組む。

2-1. 序——「としまの記憶」をつなぐ会と雑司が谷

①NPO 法人「としまの記憶」をつなぐ会の活動について伝える

設立の趣旨、経緯、活動状況と、動画、動画アーカイブについて説明する。

②記憶を支える「雑司が谷」地域の基本構造について考えを伝える。

「くらしの記憶」を中心に雑司が谷を考えるとすれば、現雑司が谷の区域・町名にこだわらず「弦巻川の流域としての旧雑司が谷地域」を対象とする必要があり、その理由と雑司が谷の特色（地形、分水界、弦巻川、また道、村中道、寺社など）について地図史料を用いて説明し、「雑司ヶ谷の記憶」を選ぶ地域を明確にする。

2-2. 動画の上映

現在保有する広義の雑司が谷に関する動画 50 タイトル程から、現在までに採取できたもっとも古い記憶である関東大震災、また空襲と避難、戦後の再出発といった時代の流れの分る動画や、古くからの家族の暮らしと雑司が谷の地域の特色を語る動画を含み、10 タイトルを選び上映する。

2-3. 語り手との交流

語り手の方にも当日参加を依頼し、上映された動画の語りの補足や追加、また参加者からの質問にも答えていただき、相互の交流を実現する。

関東大震災の経験や青い目の人形を語った石田明子さん、ミミズク資料館館長であった池澤清治さんは、残念なことに昨年亡くなりましたが、戦災に遇って焼け出され鬼子母神堂に避難し暮らした経験を持つ佃正夫さん、戦後にお会式の再興に尽力された尾上多喜雄さん、それに雑司が谷の地の中世以来の草分けとされる柳下家の柳下栄子さんなどに参加を要請する。

3. 実施したプログラムと成果

3-1. 実施プログラム

2016 年度の「池袋学 夏季特別講座 第 3 部の②上映『「くらしの記憶」から探る雑司が谷』は、以下のプログラムにしたがって、NPO 法人「としまの記憶」をつなぐ会により実施された（15 時 10 分～17 時 30 分／於・立教大学 7 号館 7204 教室）。

「くらしの記憶」から探る雑司が谷 プログラム

▼開会あいさつ

▼「としまの記憶」をつなぐ会と雑司が谷

1. 「としまの記憶」の動画アーカイブをつくる——会の紹介
2. 「雑司が谷」とは——記憶を支える地域の基本構造をみる

▼雑司が谷に関わる動画の上映と語り手による講話——「としまの記憶」アーカイブより、

- ①「幼い日、目白での関東大震災（石田明子*故人）」

- ②「昭和 10 年の明治通り（前田 繁）」
- ③「根津山で見た竹槍訓練（池澤清治＊故人）」
- ④「明治通りの空襲（外口志づ）」
- ⑤「焼け残った鬼子母神（佃正夫）」と語り手の講話
（休憩 10 分）
- ⑥「よみがえるお会式（尾上多喜雄）」と語り手の講話
- ⑦「雑司が谷・永島米店の日々（永島英子）」
- ⑧「柳下家の年末大おもちつき大会（柳下栄子）」
- ⑨「各世代が支えるお会式（法明寺住職 近江正典）」
- ⑩「都市の中の「雑司が谷村（法明寺 近江正典）」

▼閉会あいさつ

3-2. 成果

参加者は延べ 15 名で、司会の熱意も含めて順調に上映と交流は進行した。全体としては、このような分科会的な企画がもう少し多く参加し、また、シンポジウムと参加型プログラムの順序を逆にして、全体でのシンポジウムを最後とするほうが、大きく盛り上がり終了するように思われる。

（やまだ・ともし NPO 法人「としまの記憶」をつなぐ会 代表理事）